

【原 著】

附属小学校における保健指導の展開
—指導の実際を養護実習にいかす—

本田 浩江 北原 和明 水門 美穂子

上村 弘子 棟方 百熊 宮本 香代子 門田 新一郎

Activity of Health Education at Primary School Attached to the School Education,
Okayama University

Hiroe HONDA, Kazuaki KITAHARA, Mihoko MITO,
Hiroko KAMIMURA, Hokuma MUNAKATA, Kayoko MIYAMOTO, Shinichiro MONDEN

2014

岡山大学教師教育開発センター紀要 第4号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.4, March 2014

原 著

附属小学校における保健指導の展開

—指導の実際を養護実習にいかす—

本田 浩江^{*1} 北原 和明^{*1} 水門 美穂子^{*1}
上村 弘子^{*2} 棟方 百熊^{*2} 宮本 香代子^{*2} 門田新一郎^{*2}

附属小学校において、日頃の保健室で児童との関わりから気づいた課題と体育科保健領域とのつながりを意識しながら、歯・口を題材に、からだの発育発達についての保健指導を行った。同時に、養護教諭養成をになう附属小学校として、保健指導に取り組む際のプロセスを明確にすることを目的に、実践の振り返りを行った。指導計画の作成から実践までの過程を、児童の学び、授業者の反省、学級担任の評価についてまとめ、保健指導の展開にいかす視点を検討したので報告する。

キーワード：養護教諭，保健指導，養護実習

※1 岡山大学教育学部附属小学校

※2 岡山大学大学院教育学研究科

I. はじめに

1 本校における保健指導の必要性

本校は、教員養成学部を設置者とする児童数644名の附属小学校である。児童の通学範囲は、市内の22小学校区であり、通学に1時間以上かかる児童もいる。教育熱心な家庭が多く、健康や生活習慣への意識も高い。

本校の学校保健活動は、学校教育目標である「人間尊重の精神を重んじ、豊かな創造力とたくましい実践力を身につけた心身ともに健康な子どもを育成する」を具現化するために、学校保健目標である「自分のからだや心をつつめ、自分のよさを知り、自他を尊重する子どもの育成」を設定し、計画的に実践している。

毎年度初めに2年生～6年生を対象に「心の健康観察」を行っている。その結果から多くの児童が「将来なりたいものがある」と回答しており、将来への夢や希望が明確で、目標を持って前向きに生活している児童が多いことがうかがえる。また、「自分はだれかの役に立つ」と多くの児童が回答しており、自己有用感の高い児童が多いことがうかがえる。

一方で、ある時期に保健室に「何もしていないの

に、歯がグラグラする」「歯が抜けて、血が止まらない」と訴えて来る低学年児童が数名続いた。このような姿は、「目標があり前向きな児童像」とは、大きなギャップがあり、乳歯が抜けて永久歯に生え変わることは自然な変化であるにもかかわらず、とても不安に感じているようであった。教職員間で話す中で、生活経験が少ないことや、きょうだいからの情報が少ないことなどから、経験していないことへの対処の方法がわからず、自分のからだの変化をどう受け止めたらいいかかわからない児童もいると考えた。歯の生え変わりに関してだけではなく、月経についても同様の状況がうかがえた。たとえば、月経が始まった女子児童であっても、月経のことを全く理解していない様子で話す場面に出会うこともあった。

以上のようなことから、自分のからだの変化をどうとらえてよいかかわからない、あるいは、対処できない児童が、自らのからだを肯定的に受け止めていくことができるような保健指導を展開する必要があると考えた。

これまで本校の保健指導は、学級担任による指導と、養護実習の実習生による指導が中心であり、養護教諭が学級における保健指導を実施する機会は、少

なかった。児童にとって養護教諭は身近な存在ではあるが、勉強を教えてくれる人だとはあまり思っていない。しかし「お世話はいろいろしてくれる」「体のことにはちょっと詳しくそうだ」と感じているようであることから、養護教諭が教室で指導することは、児童にとってはとても新鮮で印象的であり、効果的な指導ができると考えた。さらに、児童への指導であることはもちろん、教育実習生に対しても養護教諭が学級で保健指導をする場面を見せることで、学校保健や養護教諭への理解を促す良い機会になると考えた。

2 養護実習における保健指導の課題

本校の教員は、教育をつかさどると共に地域貢献を目指す研究と、教員養成のための教育実習における実習生の指導も職務であり、養護教諭においても、養護をつかさどるとともに、養護実習における指導者としての立場を持っている。

毎年、養護教諭養成課程の3年次生（10名程度）及び養護教諭特別科の学生（15名程度）の実習指導を受け入れており、実習生による配当学級児童への保健指導（15分程度）を設定している。実習生にとっては、やりがいのある活動であると同時に不安をもた

らす活動ともいえる。からだや健康に関する情報は持っているが、指導案の作成においては経験が少ないことや、参考にすべき資料の収集が十分できず、苦慮している。また、実習生にとっても指導にあたる養護教諭や配当学級の担任にとっても附属小学校での実習期間中に、指導案の作成にのみ多くの時間を割くことはできない。実習生がより充実した養護実習とするためには、指導案作成の際に参考となる指導案が提供され、保健指導の計画から実施、評価へのプロセスを実感できる教材が求められる。

学校における体育・健康に関する指導は、小学校学習指導要領（2008）「第1章総則第1の3」に基づき、体育を中心とした関連教科や特別活動の学級活動など学校教育全体を通じて行われ、児童が健康に関する知識を身に付けることや、活動を通じて自主的に健康な生活を実践できる資質や能力を育成するものとして取り組まれている。保健指導もこの位置づけの中にあるが、指導内容や指導目標については、定められていない。そのため保健指導は、各校の実態に合わせて行われながら発展してきたといえる。一方で、それぞれの学校がそれぞれに取り組んできたともいえる。今後、保健指導は各校の実態に合わせ

表1 体育科・保健体育科における発育発達に関する学習内容

	幼稚園 *1	身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解する				個人における健康・安全に関する内容を科学的に理解する				
		1・2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
発育・発達 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (1) 先生や友達と触れ合い、安定感を持って行動する。 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。				(2)育ちゆく体とわたし ア 体の発育・発達 ○ 体は、年齢に伴って変化する ○ 体の発育・発達には、個人差がある イ 思春期のからだの変化 (ア)思春期には、男女の体つきの特徴が現れる (イ)だれにでも起こる。大人の体に近づく現象 ○ なお指導に当たっては、発達段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する必要がある。 ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活 ○ 調和のとれた食事、運動、休養及び睡眠						
				(3)心の健康 ア 心の発達 ○ 生活経験を通して発達する心 ○ 年齢とともに発達する心 イ 心と体の相互の影響 ○ 心と体は、相互に影響し合うこと ウ 不安や悩みへの対処 ○ 不安や悩みへの対処 ○ 自分に合った方法による対処、心の発達						
							(1)心身の機能の発達と心の健康 ア 身体機能の発達 ○ 各器官の機能の発達、個人差、呼吸、循環器系 イ 生殖にかかわる機能の成熟 ○ 生殖機能の発達、性衝動、異性への関心、性情報への対処 ○ なお指導に当たっては、発達段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する必要がある。 ウ 精神機能の発達と自己形成 (ア)知的機能、情意機能、社会性の発達 (イ)自己形成 エ 欲求やストレスへの対処と心の健康 (ア)心と体のかかわり (イ)欲求やストレスの対処と心の健康			

*1 文部科学省：幼稚園教育要領,2008
 *2 文部科学省：小学校学習指導要領および解説体育編,2008
 *3 文部科学省：中学校学習指導要領および解説保健体育編,2008

るという特性をいかしつつも、多くの実践からの学びが共有される必要がある。特に、指導を行う上での基本的な事柄については、小学校における保健指導の手引(1993)、小学校保健教育参考資料「生きる力」を育む小学校保健教育の手引(2013)などが参考資料となるが、指導計画および指導案を立案していく上での細やかな視点は実践者まかせになっている。

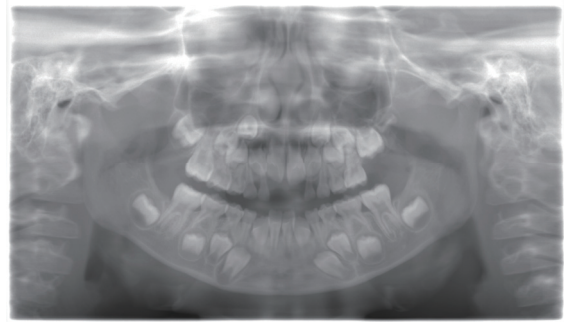
また、学校保健安全法(2008)に、養護教諭と教職員が連携して行う保健指導が明記されたことで、保健管理に伴う保健指導と保健教育に位置する保健指導の関連をいかした取組が一層期待されている。このような現状の中で、養護教諭が行う保健指導を養護実習の中でいかに指導していくかを検討していくことは、附属学校および養成大学の責務である。そこで、附属小学校における保健指導の実践をもとに、養護実習にいかす保健指導の展開について検討したことを報告する。

II. 課題の分析と指導計画の作成

1 歯科保健の分析から指導の目標の設定まで

附属小学校における歯科保健の状況は、定期健康診断(歯科検診)の結果、むし歯罹患率は11.8%で、11月6日現在の治療率は73.7%である。歯垢や歯肉の状況も95%が良好で、医療を要する児童は、歯垢は1.1%、歯肉は0.5%である。歯垢(要医療)の受診率は45.2%、歯肉(要医療)100%の受診率である。また、歯列矯正をしている児童も数多くみられ、保護者の児童の歯口に関する健康意識は非常に高い。これらのことから、児童の歯口のケアは行き届いていると考えた。

一方で、知識や経験がない事柄に関する不安が強い児童が見受けられる。このような児童には、乳歯から永久歯へ生え変わるという自分のからだの変化を、成長のステップとして肯定的に受け止めて、自分のからだを大切にしようという気持ちを持って欲しいと考えた。乳歯から永久歯への交換は、他のからだの器官ではみられない特殊性があり、直接目で見てわかりやすい。児童がこれを観察し、自分のからだの仕組みに興味を持つことは健康教育の動機付けにとってよい教材になる¹⁾。また、からだの発育発達に関する指導を成長のタイミングに合わせて取り組むことが重要である。そこで、乳歯から永久歯への生え変わり期に着目し、自分のからだ成長していることをリアルに感じ取り、今後起こってくるさまざまな変化をも肯定的に受け止めることができるよ



資料1 7歳児の歯のレントゲン写真
(学校歯科医 横山尚史先生提供)

うな学習にしたいと考えた。

そこで、体育科保健領域における発育発達に関する学習内容(表1)との関連を図り、第4学年「育ちゆく体とわたし」の単元の前段階として、からだの発育発達についての保健指導の取組を計画した。

2 指導計画の作成から実施まで

指導計画の作成にあたっては、「児童が自分のからだの変化を肯定的に受け入れる」ための取組になるように作業を進めた。

(1) 各担当者との連携

教育計画における位置づけや指導内容を検討するために学級活動担当者と相談した。次に、関係の学年主任らと相談した。そして、からだに関する内容なので、体育の学習との関連も重要であるため、体育主任とも相談した。その他の教科との関連については、今回は十分できていないが、今後の課題である。

(2) 指導内容および教材の選定

文部科学省が示した『『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり』他^{2) 3) 4)}を参考に指導内容の検討を行った。題材は、子どもの歯から大人の歯への生え変わりを扱い、本時の目標は、「永久歯と乳歯の違いを知り、乳歯から永久歯に生え変わる理由とメカニズムを理解する」と「乳歯から永久歯への生え変わりを成長のステップとして肯定的に受け止めることができ、自分の歯・口を大切にしようという気持ちを持つ」に設定した。

そして、学校歯科医に児童にとって「生え変わりのメカニズム」がわかりやすい資料について相談した。そして、年齢別歯の萌出図表や7歳児童のレントゲン写真(資料1)などを提供していただいた。どの乳歯の下からどの永久歯が出てくるのかということが、大変わかりやすいものであった。

学校歯科医はもちろん、関係の職員と平日頃から児童の実態について情報交換し、連携を図ることが

指導内容や教材を選定する上で重要であった。

(3) 指導案の作成

養護実習における指導見本となる指導案とすることをもう一つの目標として、研究主任や実習主任からも意見を得て作成した。合わせて、附属学校園の養護教諭や養護教諭養成課程の教員からも助言を得た。そして、児童の実態を詳しく把握している対象学年(2年)の学年主任と相談した。最終的には、指導者自身の言葉で修正し指導案を作成した。

指導案の形式は、養護実習の実習生が指導を受ける際に附属小学校のどの教員にもわかりやすいものとするために、附属小学校で教育実習(小学校教諭養成、主免許)用の形式を使用した⁵⁾⁶⁾。

今回の指導では、学習活動は「1. めあてをつかむ」、「2. 課題解決のための学習をする」、「3. まとめる」の3点とした。作成した指導案には、児童の理解や気づきを促すための支援となるように留意して記述した⁵⁾⁸⁾。作成した指導案は、表2に示した。

本時のめざす児童像は、「乳歯が抜けてうれしい」と思える児童である。そこで、乳歯が抜けることを不安に思う児童にとって、他の児童の体験を聞くことは学習活動として有効と考え、児童同士の体験交流を活動の中心とすることにした。児童は、どうして生え変わるのだろうか、新しく生えてくる永久歯とはどのような特徴があるのだろうか、といった疑問を持ち、課題を解決していく。このような活動を通して本時の目標に導くことができると考えた。

導入の段階で、児童の気持ちが「めあて」に向かって集中できるよう、「めあて」を児童自身が考えられるような流れを考えた。

課題解決のため、永久歯に生え変わる理由を考えさせ、生え変わる様子をつかみやすくするため図を示して、考えさせた。

まとめの段階で、学習を振り返りワークシートに児童の言葉で記述させることとした。

Ⅲ. 指導の実際と評価

1 本時の展開

(1) 指導時間

10月1日～3日の始業前「ともあそび」の時間に、2年生の各クラスで指導を実施した。15分程度の設定であったが、いずれのクラスにおいても30分程度の指導となった。

(2) 指導者の振り返り

学級Aでは、歯が抜けたときの体験を数人に発言さ

せた。どの子ども自分の体験を話したくてたまらない様子だった。おもしろくてつい次々聞いてしまったが、学習内容の進展には多くの発言は不要であった。

永久歯に生え変わる理由を「子どもの歯のままだと食べ物を食べにくいから、大きい歯に生え変わる」と考える児童や乳歯から永久歯への生え変わりを「バトンタッチ」という語で表現する児童があり、子どもたちなりの表現の仕方があった。「バトンタッチ」の言葉を、その後の指導の流れの中で用いたことで、児童の理解を促進したと考えた。

新しく使う言葉(例「永久歯」など)は、無理に児童から引き出そうとして、時間を費やすこととなったので、このような言葉は、教師側が提示しても良いと考えた。

本時の学習を自分のこととして考えるきっかけとなる資料として、学級Aの授業時には同年代の乳歯が抜けた児童の写真の写真を提示した(資料2)。しかし、すでに多くの児童は乳歯が抜ける体験をしており、写真を示すことで児童の思考が広がりすぎてしまった。結果として、歯が抜けた児童の写真は不要であったと考えた。

学級Bでは、前時の反省から歯が抜けた体験については、2～3人に語らせる程度にとどめ、本時の「めあて」に話を進めた。「めあて」が決まったら、板書し児童全員で声をそろえて「めあて」を大きな声で唱えることで意識づけた。

新しく生えてくる大人の歯である「永久歯」とはどのような歯かを考える場面で、児童から「一生使う」「大切にしないといけない」などの発言が出た。これらの発言は板書し、児童に見えるようにすることで、児童の理解をうながした。

学級Cでは、永久歯の特徴を確認し、生え変わる理由も児童に発言させ板書した。

生え変わりについて学習した後、乳歯にどんなことを伝えたいか数名に発言させ板書した。

振り返りの場面では、ワークシートに「乳歯さんにどんなことを言ってあげたいか」手紙に書くよう指示し、なかなか自分の言葉で書けない児童には机間指導で、板書を参考にしよう声をかけた。

学級の実態による違いに加えて、指導者自身が回数を重ねる中で、時間配分、板書、発問、指名の仕方などを改善して取り組んだ(資料3)。

表2 学級活動（保健指導）指導案

印	2年 ABC組 学級活動指導案	指導者 本田 浩江 10月 ●日 ●曜日 第●校時
単元・題材	子どもの歯から大人の歯への生え変わり	
目標	・乳歯と永久歯の違いを知り、乳歯から永久歯に生え変わる理由とメカニズム(様子)を理解する。【知識・理解】 ・乳歯から永久歯への生え変わりを成長のしるし(ステップ)として肯定的に受け止めることができ、自分の歯・口を大切にしようという気持ちを持つ。【関心・意欲・態度】【思考・判断・実践】	
準備	乳歯が抜けた子どもの写真 7歳児の歯口のレントゲン写真 乳歯から永久歯へ生え変わる図・子どもと大人の口(顎)の図	
	学習活動	指導の要点と留意事項(処置)
1	本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めあてをつかむ</div>	1 (1) 乳歯が抜けた子どもの写真を示すことで、歯が抜けることへ注目しやすくする。 (2) 「最近、歯が抜けた人いるかな?」と尋ねたことに対して挙手をさせることで、自分だけでなくこの時期に歯が抜ける経験をしている児童が多いことに気づきやすくする。 (3) 乳歯が抜けたときの体験を数人の児童に語らせることで、歯が抜けたことに対して感想を持ちやすくする。 ・歯が抜ける前に痛みがあったこと ・歯が抜けた後に出血したこと ・抜ける前に、けがなどしていないのにグラグラして心配になったこと (4) 乳歯が抜けた後はどうなるのかについて尋ねることで、歯の生え変わりに着目しやすくする。
	めあて	どうして歯がぬけるのか考えよう
2	永久歯に生えかわる理由について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">課題解決のための学習をする</div>	2 (1) 子どもと大人の顎の図を示すことで、成長による顎の大きさの違いに注目しやすくする。 (2) 大人の顎に乳歯を並べてみせることで、成長した顎には大きな永久歯が必要であることをとらえやすくする。 (3) 乳歯と永久歯の違いを示すことにより、永久歯になると強く噛むことができるようになることに気づきやすくする。 (4) 人間の歯は一度しか生え変わらないことを補足説明し、永久歯は一生使う歯であることを強調する。
3	永久歯に生えかわる様子を知る。	3 (1) 7歳の児童の歯口の写真と同じ児童のレントゲン写真を提示し、普通の写真では写らない歯茎の中の乳歯の下で永久歯が萌出する準備をしていることに注目しやすくする。 (2) 歯の生え変わり方を示した連続図を示すことで、乳歯の歯根がなくなって乳歯が抜けるという仕組みをとらえやすくする。 (3) 永久歯の生える準備ができる頃には乳歯の歯根が吸収される事を補足することで、自然に抜けるという体の仕組みの素晴らしさに注目しやすくする。 (4) むし歯などで治療した乳歯は歯根が吸収されず、そのため自然に抜けないことがあることも補足説明し、乳歯を大切にすることをとらえやすくする。
4	学んだことを振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">まとめる</div>	4 (1) めあてや板書のキーワードをもとに振り返るよう助言することで、歯が生え変わるのは成長のしるしであり、また自分の歯を大切にしようという気持ちになったことを自分の言葉でまとめることができるようにする。 (2) 自分の歯を大切にするためどんなことをしようと思うかを尋ねることで、永久歯を大切にしたいという気持ちを実生活につなげやすくする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【関心・意欲・態度】 自分の歯の状態に関心を持っている(発言) 自分の歯を大切にしようという気持ちを記述している(ワークシート) 【知識・理解】 乳歯から永久歯への生え変わりについて記述している(ワークシート) 【思考・判断・実践】 永久歯へ生え変わりを肯定的に受け入れ、歯を大切にするための方法を決めることができる(発言・ワークシートの記述) </div>	

2 学級担任からの評価

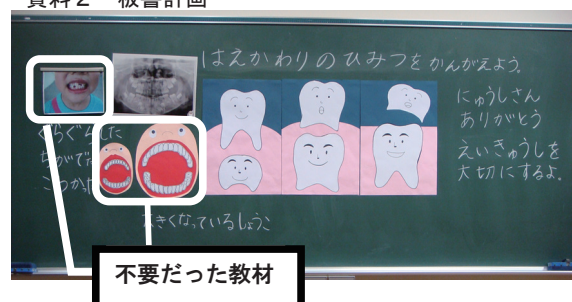
学級担任による指導の評価を表3に示した。学級担任から「児童にとって、養護教諭はからだのことをよく知っているという認識なので、担任が指導するより説得力がある」、「学習内容に興味を持って取り組むことができていた」という【養護教諭が指導する意義】を指摘する意見があった。また、「体のことで困ったことがあるときには、養護教諭に相談すればよいという安心感につながる」という意見もあり、養護教諭による保健指導は、養護教諭と児童の関係や距離感にも影響すると考えた。

【指導方法】では、発問について「学習内容として大事な言葉は、考える時間を確保して、児童が答えられるような発問をする」、「児童の発言をすべて拾い集めたら、目的に到達できない」、「ポイントから拡散するような発言が出るような発問をしない」などの指摘があった。また、板書について「大事な言葉や児童の発言は板書する」との指摘があった。このように、指導方法について発問の仕方や板書に多くの課題があることがわかった。

【教材の工夫】については、「生え変わりの場面の資料は、児童にとってわかりやすいものだった」との評価を得た。「情報は必要最小限に」、「児童に提示する資料は、指導の流れの中で必要なものだけがよい」、「あれもこれも欲張ると児童の思考が散り、目標とする学習内容に到達できない」という指摘があった。しかし、指導者には「あれもこれも児童に見せ

てあげたい」、「リアルな写真やレントゲン写真など、なるべく本物に近いものを見せてあげたい」という思いがあり、7歳児のレントゲン写真についても、「学習の流れの中で必要ない」との指摘を受けたが、からだの中で起こっている「見えない変化をみる」という経験をさせたい指導者の思いに基づき採用した。幸いレントゲン写真については、児童の中には体験のある者もいたが、不要に脱線することもなく、次の学習に進むことができた。これは普段は見るのできない変化を目で見ることに児童の関心が引き付けられたと考えられる。

資料2 板書計画



資料3 3回目の授業時の板書

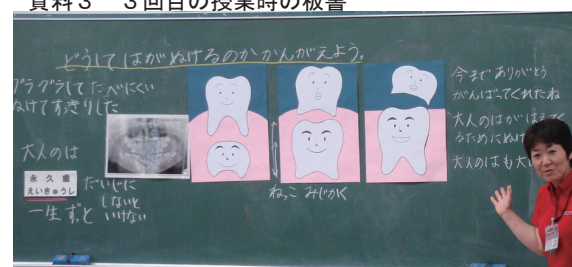


表3 学級担任からの評価

大カテゴリー	小カテゴリー	主なコード
教材の工夫	わかりやすい資料	生えかわりの場面の資料は、児童にとってわかりやすいものだった。
	必要な資料の選定が必要	情報は必要最小限に 児童に提示する資料は、指導の流れの中で必要なものだけがよい。あれもこれも欲張ると児童の思考が散り、目標とする学習内容に到達できない。 7歳半の児童のレントゲン写真についても、その後の学習の流れの中で必要無い
指導方法	発問のしかたを工夫すること	学習内容として大事な言葉は、考える時間を確保して、子どもが答えられるような発問をする ポイントから拡散するような発言が出るような発問をしない
	子ども発言の取扱い方を検討すること	子どもの発言をなんでもかんでも拾い集めたら、目的に到達できない。 指名して発言させた言葉は尊重すること。
	板書することの意義を考えること	大事な言葉、子どもの発言は、板書する(振り返りの材料になる。ワークシートに記述する際、自分の言葉がなかなか出てこない児童の助けになる。
指導の成果	養護教諭が指導することによる影響	学校の中の健康に関する専門職である養護教諭が指導をすることで学習内容に興味を持って取り組むことができていた 体のことで困ったことがあったり聞いてほしいことがあったりしたら、保健室の先生にお話すればいいんだという安心感に繋がる。 子どもの疑問に答えることができる。
	子どもたちが新しく知ったこと	乳歯の根が溶ける(吸収される)こと 永久歯が生えてくるために乳歯が小さくなって抜けること 永久歯は一生使うのだということ。薄々分かってはいるけどその重要さを再確認した。
	指導後の子どもたちの変化	乳歯が抜けたことうれしそうに報告する 歯が抜けたとき「乳歯さんが小さくなって抜けたんだよ!」と担任に報告する児童がいた。 「乳歯さん、ありがとう」などの発言がある

3 ワークシートの記述からの評価

ワークシートの記述に関する集計を表4に示した。本時の目標1「永久歯と乳歯の違いを知り、乳歯から永久歯に生え変わる理由とメカニズムを理解できる」に関係する内容として、生え変わりに関する記述をしている児童は学年全体で32.0%であった。

目標2「乳歯から永久歯への生え変わりを成長のステップとして肯定的に受け止めることができ、自分の歯・口を大切にしようという気持ちを持つ」に関係する内容として、抜けた乳歯への感謝の言葉を記述した児童は学年全体で98.1%、「永久歯を大切に

する気持ち」を記述した児童は60.2%であった。学級Aでは、学級B・Cと比較して、抜けた乳歯への感謝の言葉や永久歯を大切に

する気持ちの記述した児童が少なかった。指導者にとって初回であり、児童の理解を促すための指導が不十分であった。学級Bでは、永久歯について考えるとこ

ろで児童から「(永久歯は)大事にしないといけない」という発言が出たので、板書にも明記した。そのためワークシートに永久歯を大切に

する気持ち」を記述した児童は60.2%であった。学級Aでは、学級B・Cと比較して、抜けた乳歯への感謝の言葉や永久歯を大切に

する気持ちの記述した児童が少なかった。指導者にとって初回であり、児童の理解を促すための指導が不十分であった。学級Bでは、永久歯について考えるとこ

ろで児童から「(永久歯は)大事にしないといけない」という発言が出たので、板書にも明記した。そのためワークシートに永久歯を大切に

表4 指導後のワークシートの記述(n=101)

	A	B	C	合計
抜けた乳歯への感謝の言葉	32 94.1%	35 100.0%	34 100.0%	101 98.1%
永久歯を大切に する気持ち	15 44.1%	28 80.0%	19 55.9%	62 60.2%
はえかわりに関する 記述	10 29.4%	8 22.9%	15 44.1%	33 32.0%
残っている乳歯を 大切に する気持ち	3 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.9%
永久歯を大切に する 方法	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%

そこで、児童にワークシート返却する際、児童の理解を促すことや意識の継続を図り、保護者の理解を得ることを目的に指導した要点と児童の記述をまとめたプリント(資料4)を配布した。

資料4 ワークシート返却時に配布したプリント

2年生のみなさんへ
にゅうしがぬけて、えいきゅうしがはえてくるおはなしをしましたね。

わたしは、にゅうし。えいきゅうしさん、じゅんぴはいかがですか。こちらむかってはえてきてね。

ねっこがちいさくなって、クラクラ～

ぼくは、えいきゅうし。にゅうしさんの下で、じゅんぴ中。

じゅんぴがきたら、バトンタッチするよ。もう少しまってね～

にゅうしさんへ
今までありがとう。えいきゅうしさん、これからよろしく。

にゅうしさんへ
えいきゅうしがはえるためにぬけてくれてありがとう。さようなら。

にゅうしさんへ
0才から7才までずっとけんこうをまもってくれてありがとう。おきくなくなってもわすれないよ。小さくなってぬけてくれたけど、こんどはえいきゅうしもたいせつにするよ。

にゅうしさんへ
今までがんばってくれてありがとう！おかげでしっかりした大人の歯が生えてきたよ。大人の歯もずっとつかうから大切にしよう。ぬけてくれたから、まい日はほんがとってもおいしいよ！ありがとう。

びょうきやケガでもないのしぜんに『は』が、ぬける。そして、新しく生えてくるえいきゅうし(おとなの歯)にバトンタッチ！！それは、みんなが成長(せいちょう)しているとてもステキなしょうこ！
ほんだ

にゅうしさんへ
にゅうしさん、ありがとう。今までお世話になりました。えいきゅうしさんにバトンタッチしてえいきゅうしさんもおはみがきできれいにしてまわるからね。

IV. 実践から養護実習にいかす視点

養護実習での保健指導の時間は、15分間と設定しているが、これまでの養護実習では、計画が不十分なことや児童の発言をどう取り扱うかというような問題があり、ほとんどの学生が時間を超過している。

今回の指導も15分を目安としていたが、学級Aは35分、学級Bは30分、学級Cは30分であった。今回の指導目標では短時間で児童に考えさせ、学習の目標に到達するのは困難であった。児童への学習内容の定着を図るには、時間の確保も重要な要素であると考えた。また、限られた時間の中で指導を行うには、児童に考えさせる場面を限定することが必要であり、おのずから学習の目標も限定される。どこの学校でもなされていることではあるが、指導すべき内容を吟味し、計画的に実施できるよう学校保健計画(表5)を中心に、健康に関する全体計画を作成することが必要である。この計画に基づき、養護実習生に示す指導案作成のプロセスと留意点及び指導のポイントを以下のようにまとめた。

1 指導案作成のプロセスと留意点

(1) 児童の思考の流れをイメージする

短時間の限られた時間で行う指導では、要点を絞って行うことが必要である。児童に考えさせるべきこと

は何かをよく考えて、特に、指導が終わった後、児童はどんな姿(気持ち・考え)になっていたらいいかをイメージして、そうなるために必要なプロセスを考えていくことで指導すべき内容が決まってくる。したがって、児童の思考の流れがスムーズになるような展開にすることが必要である。小学生にとっては、科学的に正しい知識を伝えることに多くの時間とエネルギーを費やすべきではなく、児童に興味を持たせて考えさせるような指導の工夫が求められる。

(2) 児童の立場で書く

学習活動は、「1. めあてをつかむ」、「2. 課題解決のための学習をする」、「3. まとめる」の3点である。「学習活動」の欄には、学習者である児童の立場で記述する。「指導の要点と留意事項」の欄には、指導者がどういうねらいで児童にどのようなことをさせるのかを具体的に明記する。

(3) 情報及び資料の精選

効果的で効率的な指導にするためには、提示する情報及び資料は、欲張らず最小限におさえる。

(4) 模擬保健指導に取り組む

「指導案ができた」と思ったら、細案を作成する。具体的にどんな言葉で児童に話しかけるか、記述する。同時に、児童に問いかけた時にどんな回答が返っ

表5 学校保健計画

平成25年度		学校保健計画				附属小学校		
目標:自分のからだや心をつみ、自分のよさを知り、自他を大切にすることも育てる		保健		管理	体育	特別活動における保健指導		ほけんだより
月	保健目標	学校行事	心身の管理	環境の管理	保健領域	学校行事に併せて	学級指導	児童保健委員会
4月	自分の体をよく知ろう	・定期健康診断(身体計測・尿・寄生虫検査・1年生心臓検査)	・アレルギー講習会・健康観察(毎日)・保健調査・緊急連絡簿・食事アレルギー対策・ケース会・定期健康診断の事後措置	・校舎内外の安全点検 年間・机椅子の調整・飲料水の水质検査 年間	健康診断の受け方 心の健康観察 (2~6年生)	健康診断の受け方 心の健康観察 (2~6年生)	心臓検査事前指導 トイレの使い方 低学年	健康診断の受け方 学校医の紹介
5月	すずんで病気を治そう	・定期健康診断(内科・結核・眼科・視力・聴力・歯科)・4年6年内科結核検査・4年山の学校前健康相談・6年修学旅行前健康相談 ・養護教諭養成課程3年次養護実習	・定期健康診断の事後措置・健康相談 ・山の学校前健康安全対策・臨床心理士による教育相談(年間)	・便所の清掃点検 ・害虫対策 ・飲料水の管理・給食室食器等のふき取り検査	健康診断の受け方	健康診断の受け方	歯科検診と歯の健康 初経の手当4年女子	衛生強化週間(ハカチ・アイッシュ・瓜切り・マスク名札) 健康診断の受け方2 歯科検診結果の見方 歯の健康
6月	歯を大切にしよう 夏の病気を防ごう	・定期健康診断(耳鼻科)・歯の衛生週間・5年内科結核検査・5年海の学校前健康相談 ・養護教諭特別科養護実習	・定期健康診断の事後指導・水泳時の健康管理・歯の衛生週間の啓発・修学旅行前健康安全対策・海の学校前健康安全対策	・プール水质検査・プールの衛生管理・ごみ処理場の衛生予防と清潔・手洗い 水飲み場の清掃点検・湿度測定・ダニの検査・騒音検査	毎日の生活と健康(3年生)①② 育ちゆく体とわたし(4年)①② 心の健康(5年) 病気の予防(6年)①②③④	健康診断の受け方	耳鼻科検診事前指導 水泳と健康安全 汗の始末と水分補給 夏に負けない体作りをしよう 睡眠(低・中) 熱中症(高)	歯の健康 熱中症予防 熱中症の結果 熱中症予防
7月	夏を元気にすごそう	・学校保健委員会・職員健康診断・職員胃検診	・プール事故発生時の処置・疾病治療状況の把握・水泳記録会出場者の健康管理	・プールの衛生管理・校内諸設備の管理・プールの衛生管理・校内諸設備の管理	毎日の生活と健康(3年生)③ 育ちゆく体とわたし(4年)③④ けがの防止(5年) 病気の予防(6年)⑤⑥⑦⑧	熱中症予防 ハッパもぐもぐウィーク	衛生強化週間(ハカチ・アイッシュ・瓜切り・マスク名札)	熱中症予防 夏休みの過ごし方
9月	からだを鍛えよう けがを防ごう	・身体計測	・夏休み中の健康管理・疾病治療状況の把握・熱中症予防対策	・給食室食器等のふき取り検査	毎日の生活と健康(3年生)③ 育ちゆく体とわたし(4年)③④ けがの防止(5年) 病気の予防(6年)⑤⑥⑦⑧	熱中症予防 ハッパもぐもぐウィーク	熱中症対策の呼びかけ	熱中症予防 けがの予防
10月	目を大切にしよう	・視力検査	・低視力者精検通知・姿勢指導強化	・照明器具の点検・黒板の点検 ・机椅子の調整	毎日の生活と健康(3年生)③ 育ちゆく体とわたし(4年)③④ けがの防止(5年) 病気の予防(6年)⑤⑥⑦⑧	目の健康	目の健康	目の健康
11月	寒さに負けない体をつくろう	・いい歯の日(11月8日)	・薄着の指導・むし歯治療促進		毎日の生活と健康(3年生)③ 育ちゆく体とわたし(4年)③④ けがの防止(5年) 病気の予防(6年)⑤⑥⑦⑧	歯の健康	安全な廊下歩行(児童保健委員会)	歯の健康
12月	風邪を防ごう		・健康観察の強化・うがい・手洗いの励行・戸外運動の奨励・疾病治療状況の把握	・教室の換気(CO2検査)	毎日の生活と健康(3年生)④	手洗い・うがい 冬休みの健康安		風邪の予防
1月	風邪を防ごう	・身体計測	・健康観察の強化・うがい・手洗いの励行・かぜによる欠席者の把握・戸外運動の奨励	・教室の換気・照度検査 ・机・椅子の調整・給食室食器等のふき取り検査	毎日の生活と健康(3年生)④	かぜの予防	衛生強化週間(ハカチ・アイッシュ・瓜切り・マスク名札)	風邪の予防
2月	風邪を防ごう		・姿勢指導強化・うがい・手洗いの励行	・教室の換気(CO2検査)	毎日の生活と健康(3年生)④	かぜの予防		風邪の予防
3月	一年間のくらしについて反省しよう		・学校保健統計・健康生活の評価、反省	・便所・ごみ処理場の清掃		健康生活の反省 春休みの健康安全		1年間の反省 保健室利用のようす

てくるかをできる限り予想することで、初めに考えた指導案に無理があることに気づくことがある。また適切な発問を考えるきっかけにもなる。

細案、指導案ができたなら、身近な誰かに模擬授業をしてみる。新たな気づきがあり、人からのアドバイスを素直に受け止めて、指導にいかすことは実践力向上には欠かせない。

(5) 板書計画を確認する

板書計画は、指導後に板書をみれば本時の学習内容がわかるような内容になることが必要である。入念な板書計画を立て、児童に読みやすい文字で書くことも指導内容の定着のためにとっても重要である。

2 指導時のポイント

(1) 「めあて」をつかむ

導入時に、児童の気持ちがめあてに向かって集中できるように本時の「めあて」を児童自身が考えられるような流れを作る。

「めあて」が決まったら、板書や全員で声をそろえて「めあて」を言うなどの方法で意識づける。

(2) 課題解決のための学習をする

指導者と児童の一对一のやりとりにならないように、学級全体の児童が考えることができるような言葉かけが必要である。指導の中で出てくる大切な言葉(学習のポイントとなるような言葉)は、指導者が一方的にしゃべるのではなく、児童に考えさせ発言できるように発問をする。適切な発問ができず、本筋から外れそうな時には指名せず、児童にたくさんつぶやかせて、その中から大切な言葉を取り上げることも一つの方法である。指名して発言させた言葉は聞き流してはいけない。大切な言葉は、児童に読みやすい文字で板書して、授業の終わりまで児童の目に触れるようにし、印象に残るようにする。そうすることは、まとめの段階で自分の言葉でうまく表現できない児童の参考にもなる。

(3) まとめる

まとめの段階では、本時のポイントを再度確認し、振り返りを行う。ワークシートなどの作業を通して理解の定着を図る。その際、机間指導を行い、板書を活用して、児童の理解を促す。また、ワークシートは、指導者自身の反省の重要な材料となる。

指導後には、ワークシートを分析し、児童にフィードバックすることが必要である。ワークシート返却時には、指導の要点や児童の記述の主なものを紹介し、まとめてプリントにして配布することで、指導の補足を行い、理解の定着や意識の継続が可能にな

る。また、保護者の理解を得る貴重な機会となる。

V. おわりに

保健室で児童と関わる中での気づきから、保健指導を行い、養護実習生が取り組む保健指導の展開にいかしたいと考え、実践の振り返りを行った。保健指導は指導時間、指導目標、指導内容、そのいずれも実態に合わせて設定できる。そのことが保健指導のおもしろさであり、難しさにもつながっていると感じた。養護実習生が実態に合わせた保健指導を実現することは、極めて難しい。実習生は与えられた条件の中で体験できる実態をつかんで保健指導に取り組んで欲しい。つまり、担任からの情報、自分の目で観察した事柄、児童と関わりの中でつかんだ情報などから、学年の既習事項を考慮し、年齢に合わせた内容で、児童の特性や能力に合わせた支援を行うことである。そのために実習生が保健指導の指導案を作成する際の資料となればと考えて本稿をまとめた。今後、養護教諭による実践研究がより多く公表されるようになり、取組に必要な視点が共有されることが必要である。児童が自分のからだや健康をみつめて、必要に応じてスキルを使うことができ、自分のからだを肯定的に受け止め、新たな出来事にも対処できるようになって欲しい。保健指導の方法論が示されることは、各校まかせや養護教諭まかせの保健指導から、どこの学校でも、どこの養護教諭でも、必要な保健指導ができ、児童の生きる力を育むことにつながると考えた。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省：「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり，p31，2011
- 2) 松永かおり いきいきミニ保健指導上（4月→9月），ぱすてる書房，大阪，2011
- 3) 川畑徹朗 ライフスキルを育む歯と口の健康教育，東山書房，京都，1998
- 4) 日本歯科医師会：歯とお口のホームページ，<http://www.jda.or.jp/> 最終アクセス 2013.11.26.
- 5) 岡山大学教育学部：教育実習記録，2013
- 6) 岡山大学教育学部附属小学校：教育実習の手引き，2013
- 7) 岡山大学大学院教育学研究科・教師教育開発センター「教職員研修モデルカリキュラム開発プロジェクト」：授業力パワーアップセミナー資料，2013
- 8) 岡山県総合教育センター：学習指導案の形式（例）小学校特別活動，http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/sidoan/sho/syo_tokkatu.pdf，（最終アクセス 2013.11.26.）
- 9) 太田泰子他：附属中学校における学校保健委員会の取り組みー養護実習への活用を視野に入れてー，岡山大学教師教育開発センター紀要，第3号，P152-161，2013
- 10) 文部科学省：「生きる力」を育くむ小学校保健教育の手引，2013

Title : Activity of Health Education at Primary School Attached to the School Education, Okayama University

Hiroe HONDA *1, Kazuaki KITAHARA *1, Mihoko MITO *1 ,
Hiroko KAMIMURA *2 , Hokuma MUNAKATA *2, Kayoko MIYAMOTO *2 , Shinichiro MONDEN *2

Key Words : Yogo teacher, School Health Education, Practical Training for Student Yogo Teachers,

*1 Primary School Attached to the School Education, Okayama University

*2 Okayama University Graduate School of Education
